



東中だより

夢を追い、自らを高めよ
— 学べ・磨け・輝け —

5月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

平成31年4月26日発行

新たな時代“令和”を迎え

校長 石川 賢一

正門正面の八重桜が見事に花開き、チャレンジガーデンではチューリップが色鮮やかに咲き誇っています。街中には木々たちが新緑の色を濃くし穏やかな気候と共に、春を感じさせてくれています。みなさんも、登校時や休日、ちょっと視線を違うところへ向け、新緑と色鮮やかな花たちを眺めながら歩いてみてはいかがでしょうか。とてもさわやかな季節を感じられると思います。

新年度がスタートして、早くも3週間が経ちました。生徒のみなさんそれぞれが、本人にしかわからない緊張とがんばりの中での3週間だったと思います。1年生は部活動へ本入部となり、どの部も活発な活動を展開しています。特に、運動部は1ヵ月後の学校総合体育大会にむけて練習や練習試合を重ねています。そんな中、新入部員を迎え、2・3年生たちがひとつひとつ丁寧に指導している場面を各部で目にします。1年生の新入部員たちも、慣れないながらも教わりながら、一生懸命にやっています。それぞれの立場での微笑ましい姿は、まさにこの時期の学校の姿。2・3年生 ありがとう。1年生 がんばれ！

ところで、みなさん知っての通り、10連休の間に大きな時の変化があります。『平成』から『令和』への改元です。幅広い階層の人たちが詠んだ4500首以上の和歌が収められた日本最古の和歌集「万葉集」からの出典だそうです。

万葉集「梅花の歌」より

初^{しよしゅん}春の令^{れいげつ}月にして 気^{きよ}淑く風^{かぜ}和^わらぎ

梅^{うめ}は鏡^{きやうぜん}前の粉^{こな}を披^{ひら}き 蘭^{らん}は珮^{はい}後の香^{かう}を薫^{かほ}らす

この歌の意味は、ぜひ学校図書館で調べてみてください。新元号『令和』には、“人々が美しく心を寄せ合う中で、新しい文化、新しい時代を切り開いていく”という意味が込められているそうです。

AIの発達やロボット化が急速に進み、10年後の私たちの生活がどうなっているのか想像できないほど社会は大きく変化しています。また、人の考えや思いも多様化する社会で、お互いを理解し、共に生きていく時代。だからこそ、“人々が美しく心を寄せ合う”ことはとても大切なことだと思います。

始業式では、「学び」「自律」「協働」を大切にすることを伝えました。しっかり学び、自分を律する力をつけ、“自分”を育て、仲間を理解し、共に活動していける東中生に成長してほしいと願っています。